

【卓球】

ワールドツアー

国際卓球連盟(ITTF)が主催するワールドツアースウェーデンオープンとドイツオープンの2大会にアカデミー生4名が出場しました。

スウェーデンオープンでは入賞こそ逃しましたが、ドイツオープンでは女子ダブルスで長崎さん・木原さんペアが準優勝を果たしました。ドイツオープンはワールドツアーの中でも一番上の“プラチナ大会”であり、その大会で準優勝を果たしたことは大きな成果



【卓球協会HPより】

です。長崎・木原ペアは今シーズンに入って好調で、幾つかの国際大会でも優勝を果たしており、更なる活躍が期待されます。

また、宇田君は、2大会共に予選トーナメントを勝ち上がり、決勝トーナメントに進出しました。宇田君は、帰国後に「今後は、決勝トーナメント進出ではなく、決勝トーナメントに入って何回勝てるかが、勝負になる。常に、ベスト8入りを果たしたい」とコメントしていました。今後の上位入賞を期待しています。

《主な大会成績》

○スウェーデンオープン(10/1～10/6:ストックホルム)

- ・男子シングルス 宇田 幸矢 ベスト32
- ・女子シングルス 長崎 美柚 ベスト16
- ・女子ダブルス 長崎美柚/木原美悠 ベスト16

○ドイツオープン(10/8～10/13:ブレーメン)

- ・男子シングルス 宇田 幸矢 ベスト32
- ・女子ダブルス 長崎美柚/木原美悠 準優勝

【アーチェリー】

全日本ターゲット選手権大会

第61回全日本ターゲット選手権大会が10月25日から27日まで、つま恋リゾート彩の郷(静岡県)で開催され、高見朋夏さん、渡邊さん、園田さん、渋谷さん、伊藤君、野田君の6名が出場し、渡邊さんが準優勝、また渋谷さんがベスト8入りを果たしました。予選ラウンド、女子(78名出場)で渡邊さんは5位(645点)、渋谷さんは11位(634点)、園田さんが19位(626点)で決勝ラウンド進出を果たしました。

一方、男子(96名)は、伊藤君が28位(648点)で決勝ラウンド進出を果たしました。



決勝ラウンドに入り、渡邊さんは調子を上げ、準々決勝でワールドカップファイナルに進出した杉本選手を破り、さらには準決勝では予選1位の杉林選手を破り決勝に進出。決勝でも、中盤まで4対2とリード(6点先取)しましたが後半に逆転され、4対6で敗れ、優勝は逃しましたが、日本で最も大きな大会で準優勝を果たしました。

また、渋谷さんも初出場ながら持ち前の集中力を発揮し、決勝ラウンドの1・2回戦を勝ち上がり、ベスト8と健闘しました。新井コーチは「今回の経験を糧に、緊張感ある中、実力が発揮できるように練習の中で工夫をしていく」とコメントしています。

11月からは、東京オリンピック出場をかけた選考会が始まります。アカデミー生が互いに切磋琢磨し、出場権を獲得できることを期待しています。

【ボート】

全日本新人選手権大会

ボートの今シーズンを締めくくる第60回全日本新人選手権大会が10月25日から27日まで、戸田ボートコース(埼玉県)で開催されました。松田さん、上野さん、瀬川さんの3名に加え、共にトレーニングを行っている成立学園の選手、そして、「舵手」と呼ばれる艇の操舵を専門に行う選手の5名で「舵手付クォドルブル」に出場し、準優勝を果たしました。

この大会は、大学生や社会人選手を中心とした20歳以下の全日本選手権です。今回はチームビルディングを目的としてクルーを組み、チームで勝利を掴むために大会へと臨みました。

予選(17クルー出場)では、大学ナンバーワンのチームとの戦いとなりました。緊張からか、ウォーミングアップから動きに硬さが見られ、思うような艇の運びはできませんでした。前半から果敢に攻めるも、中盤に艇を伸ばすことができずに差を広げられ、ラスト手前から巻き返すも力及ばず2着でのゴールとなりました。

敗者復活・準決勝とレースを重ねる毎に緊張もほぐれ、本来の漕ぎができるようになってきました。また、予選で課題となったレース中盤での艇の減速を、漕ぎのリズムや技術面を改善することによって抑えることができるようになりました。

そして、決勝では、スタートから勢いよくスピードにのり、中盤で

も首位をキープ。しかし、徐々に大学生チームが迫ってきて、粘り強く漕ぎ続けるも僅かに力及ばず、0.3秒差の2着でゴールしました。

原口コーチは「今大会、競技力、経験値、共に全く異なる選手でクルーを構成し、一つの目標に向かって挑戦したが、5人が5人それぞれの役割を果たし、非常によいトレーニング・レースを行うことができました。今大会にて、今シーズンは終わりとなるが、また来月からは次のシーズンの代表選考が始まる。この経験を活かし、チーム全員で代表権獲得に向けて、引き続きトレーニングを積んでいきたい。5人での練習期間は、多くは取れなかったが、1回のトレーニングに集中し、毎日工夫を重ねながら着実な成長が見られた」とコメントしています。



【予選の様子(手前から松田・上野・瀬川)】

国民体育大会

第61回国民体育大会(いきいき茨城ゆめ国体)が、「翔べ 羽ばたけ そして未来へ」をスローガンに9月から10月にかけて茨城県で開催されました。

JOCエリートアカデミーからは、6競技14名が出場しました。殆どが「ふるさと制度」を活用し、出身都道府県から出場しました。9名が優勝を果たしましたが、これは出場したアカデミー生全体の64.2%であり、大きな成果です。

国体は他の大会と異なり、都道府県の競技得点争いもあり、アカデミー生もそれに貢献することができました。

【主な大会成績】

・少年男子レスリング60kg級	高橋 海大(東京都)	3位
・成年女子レスリング61kg級	尾崎野乃香(東京都)	優勝
・少年男子飛板飛込	遠藤 拓人(宮城県)	優勝
・少年女子飛板飛込	安田 舞(鳥取県)	優勝
・少年男子エアライフル	大塩 勇斗(福井県)	優勝
・少年女子エアライフル	高木 葵(岐阜県)	優勝
・少年男子シングルスカル	中條扇之介(山形県)	優勝
・少年女子シングルスカル	松田 京子(福岡県)	優勝
・少年女子ダブルスカル	上野 美歩(岐阜県)	優勝
・少年男子アーチェリー	伊藤 魁晟(広島県)	優勝
・少年女子アーチェリー	高見 愛佳(長崎県)	3位
・少年女子アーチェリー	高見 朋夏(長崎県)	3位

食事状況フィードバック

SAKURA Diningの管理栄養士によるアカデミー生に対する食事状況のフィードバックが行われました。

この目的は「選手自身が日々の食事の振り返りを行うことで、食事による身体面や競技面への変化を感じてもらうため」ということで、毎年実施しています。

方法は、4月～7月中に栄養管理システム(通称:mellon)に登録した食事を元に解析を行い、その結果をアカデミー生に伝え、食事の改善を促しています。

フィードバックの主な内容は、①食事写真の登録件数、②主食・主菜・副菜・汁物・果物・乳製品の各カテゴリーの摂取率、③管理栄養士よりコメントです。

担当している管理栄養士からは、「自分の食事を改めて振り返ってみることで、自分の食事の弱点と向き合う良い機会になっているようだった。結果を見て、弱点を克服するために行動に移す選手も多くみられたため、フィードバックの重要性を感じた。今後も定期的に食事の振り返りを行う機会を設けていきたい。」との感想が聞かれました。

食事は競技力向上に欠かせないものです。今回のフィードバックをもとに、更に食事や栄養に関心を持ち、しっかりした体づくりに励んでほしいと思います。

WPN研修会

10月17日、18日の2日間、独立行政法人日本スポーツ振興センター(JSC)主催の、「ワールドクラス・パスウェイネットワーク(WPN)研修会」が開催され、その中でボート競技の中條君が自分の体験などを発表しました。

この研修会は、JSCが日本全国で行われているタレント発掘事業の担当者を対象として毎年開催しています。今年度は“タレント発掘の新時代を切り拓く”をテーマとして、1日目は千駄ヶ谷の新国立競技場脇に新たに建設された「JAPAN SPORT OLYMPIC SQUARE」、2日目はナショナルトレーニングセンターの隣にある「国立スポーツ科学センター(JISS)」で開催されました。

中條君は1日目に「世界を目指す覚悟」というテーマで、出身地である山形県タレント発掘事業での思い出やボート競技との出会い、JOCエリートアカデミー入校を決めた理由などについて話をしました。中條君にとって、数多くの参加者の前で話をすることは、初めての経験です。その中でも、自分の意見をはっきりと述べることができました。貴重な経験であり、競技に活かされることを期待します。

公益財団法人 日本オリンピック委員会
JOCエリートアカデミー事業
〒115-0056 東京都北区西が丘3-15-1
味の素ナショナルトレーニングセンター
TEL:03(5963)0355/FAX:03(5963)0356

JOCエリートアカデミーだよりは
以下のHPでもご覧いただけます。
<http://www.joc.or.jp/training/ntc/eliteacademy>